



2学期が始まりました!

始業式では、田尻中学校の皆さんが、無事に夏休みを過ごして元気な姿で集まれたことを本当に嬉しく思いました。2学期が始まり、最初の週に台風が来て心配されましたが、何とか無事に通り過ぎて安心しました。月間天気予報では、今年の9月も暑いと予想されています。睡眠時間をしっかりとって、朝ご飯をきちんと食べ、毎日元気に登校してほしいと願っています。

2学期は、1年間で最も学校生活が充実するときです。一人一人、具体的な目標を持って、その目標達成に向けて、頑張ってください。

平和への願いをこめて!

8月6日の平和登校日には、私自ら、戦争と平和について、皆さんに語りました。16歳で予科練生として終戦を迎えた私の父からの遺言ともいえる教を皆さんに伝えました。あの時代は、校長先生が、児童生徒を戦争へと向かわせた時代です。だからこそ、校長である私自身が、自分の言葉で戦争の恐ろしさや平和の尊さを伝える責任があると思っています。最後まで、真剣に聴いてくれた1年生から3年生までの皆さんに、とても感謝しています。太平洋戦争の概要と人類として初めて落とされた原子爆弾について、詳しくお話しましたが、伝わったでしょうか? 平和な世界をつくっていきけるよう、一人一人ができることを続けましょう。

当日は、特別ゲストとして、田尻町在住の琉球民謡音楽協会三線教師の伊藤幸二さんにお越しいただき、三線を引きながら「島唄」を歌っていただきました。「THE BOOM」不動の名曲「島唄」はとても有名な曲ですが、この島唄は、悲惨な沖縄戦のことを知った、バンドのフロントマン宮沢和史さんが、沖縄戦への鎮魂歌として作った曲だそうです。

「でいごの花が咲き 風を呼び 嵐が来た」で始まる歌詞には、「1945年春、でいごの花が咲く頃、米軍の沖縄戦が開始された」という意味が込められています。三線教師の伊藤さんが、歌詞の中にある「このまま永遠に夕凧を」に「このまま永遠に穏やかな平和が続いてほしい」との願いを込めて歌いますと話してくれました。とても感動的な演奏会になりました。最後は、アンコールに応えていただき、沖縄民謡のカチャーシーという曲を、田尻中学校の生徒も踊りながら、みんなで歌いました。切ない気持ちを抱きながらも幸せを感じることができる時間になりました。



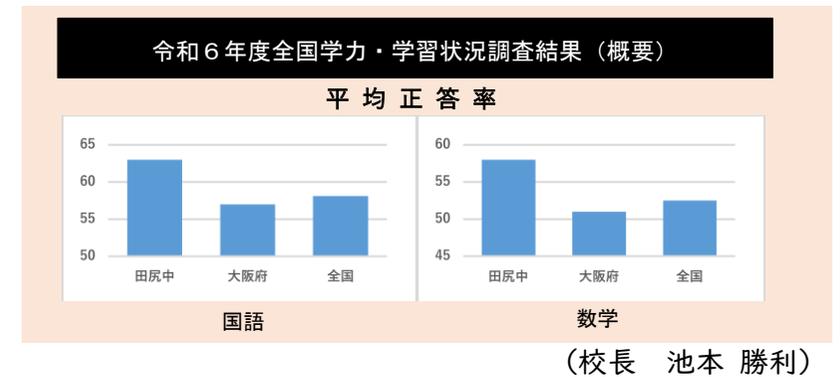
3年生がクラブを引退しました!

勝ち進んでいるクラブと秋に最後の大会を残しているクラブ以外は、夏の大会を最後に、多くの3年生がクラブを引退しました。私は、7月から8月にかけて、男女陸上部、男女卓球部、女子テニス部、男子バスケットボール部、男子テニス部、女子バスケットボール部の順で、試合の応援に行きました。どのクラブも必死に戦いました。男子テニス部は府大会に出場しました。また水泳をはじめとして、校外のスポーツ活動に取り組む生徒たちも存分に力を発揮してくれました。

勝ち負けと同じくらい大切なのが、どう戦ったかです。田尻中学校の3年生は、最後まで諦めることなく精一杯がんばりました。一緒に出場した1年生や2年生が、3年生から多くのことを学んだと思います。この良き伝統は次の2年生が受け継いでくれると確信しています。

全国学力学習状況調査の結果が届きました!

令和6年4月18日に実施した「全国学力学習状況調査」の結果が届きました。今年度は、国語と数学の2教科でした。田尻町立中学校の3年生は、2教科とも本当によく頑張りました。以下に、その結果の概要を掲載しますので、参考にしてください。



今後の予定

9/3(火)	【3年生】大阪府チャレンジテスト
9/5(木)	検尿
9/6(金)	検尿(予備日) 会議のため部活動なし
9/9(月)	防災に関する講話(吉田亮一さんが東北より来校)
9/18(水)	5限授業 部活動なし
9/23(月)	【秋分の日 振替休日】
9/27(金)	【3年生】英語検定受験
10/1日	体育大会 予行
10/3(木)	体育大会
10/4(金)	体育大会 予備日
10/7(月)	【3年生】第2回学力診断テスト
10/8(火)	モアレ検査
10/17(木)	中間テスト1日目
10/18(金)	中間テスト2日目
10/22(火)	個人教育相談(~25(金))

田尻に残る 平和への祈り

皆さん、田尻小学校の正門前を通る時、ひときわは大きく高い石碑が建てられているのをご存知でしょうか。表には、「忠魂碑」と刻まれており、裏に回ると昭和3年11月に建立されたことがわかります。

忠魂碑とは、戦争で亡くなった地域出身の方の名前を刻み、「兵士としての活躍をたたえる」という目的で明治時代から昭和時代にかけて全国各地に建立された石碑です。戦没者のことを「国のために尊い命をささげた英雄」だにとらえ、死後「神様として」まつられ、敬うように求められました。

全国の忠魂碑の多くは小学校の校舎近くに残っています。当時の国の体制から教育的な効果を得るためだと予想されます。そのため、碑の文字は有名な軍の関係者が書くことが多く、陸軍大将を務めた一戸兵衛(いちのへ ひょうえ=右写真)氏によって書かれたと記されています。



碑の隣には、「戦役死者」とかかれた小さな石碑があります。ここには、「明治 27・8 年戦役(日清戦争)」,次に「明治 37・8 年戦役(日露戦争)」,そして「大正3年戦役(第一次世界大戦)」での戦没者名を記しています。



そして忠魂碑を挟んで反対側にもう一つ「英霊標」と書かれた小さな碑があります。これは比較的新しく、だいぶ後になって製作されたものと思われます。104 名の名前が刻まれ、昭和 52年 8 月建立とありますので、おそらく第二次世界大戦の戦没者を記していると思われます。



…忠魂碑について改めて調べてみて、私はかつての戦争で、田尻から戦地に赴き尊い命を犠牲にされた方がこんなにもいることに驚きました。そして忠魂碑の建立が「当たり前的事として全国的に行われてきた」ことがとてもショックでした。出征の決定を「おめでたい事」として地域を挙げて祝い、戦地に向かう人は「行ってまいります」、送り出す人は「万歳」「行ってらっしゃい」…。さみしさや怖さ、自分ではどうにもならない無念な気持ちを押し殺してふるまう姿に…。

戦後、1946 年公布の日本国憲法により、戦死者を神としてまつる忠魂碑の存在は「信教の自由」に反するものとなり、それに代わって、戦争で亡くなった全ての人の霊を弔い、慰め、二度と戦争をしないとの決意を込めた「慰霊碑」が多く建てられます。現在に残る碑は 慰霊碑としての意味合いで残されているのです。

今年(2023年)は第二次世界大戦の終結から 79 年を迎えます。

世界は今、戦争が継続されている最中にあり、そこから人々の心に大きな変化が現れてきています。特にロシアによるウクライナ進攻は、世界を二分する構図へと大きく変わり、その対処法として互いに軍備を拡大・増強する方法がとられています。

8月6日の広島平和記念式典では、松井市長はかつての米国・ソ連

の大統領が冷戦を終結し、核兵器削減を断行したことを例にとり、「為政者の断固とした決意で対話をするならば、危機的な状況を打破できる」と話しています。当時、決して交わるとは思われなかった米ソの代表者が、互いに歩み寄った事例を示し、対話と行動の重要性を示しています(読売新聞 8/6 夕刊・8/7 朝刊)。

8月9日の長崎市長は被爆後の体調不良や他者からの差別に苦しむ若者が自身の詩を通じて「二度とこんな思いをさせてはならない」という思いを紹介し、「核兵器の軍拡(軍備拡大)と威嚇はもういらぬ」とはっきり宣言し、核兵器廃絶への思いと行動を、日本そして世界の国々に訴えました(読売新聞 8/9 夕刊・8/10 朝刊)。

戦争は突然始まるものではなく、それ以前から布石や予兆が必ずあります。いえ、もっと言えば確実に周到な準備があります。今の日本は、みなさんにとってどう映るでしょうか。

日本は現在、他国と戦争こそしていませんが、戦争している国への支援を行ったり、貿易に制限を加えたりすることで間接的に戦争と関わっています。同時に、国境の沿岸地域に自衛のためのさまざまな施設・設備に国家予算を投入しています。沖縄県を中心として米軍基地も多く存在します。戦争を経験した人の中には今の日本や世界の様子を「戦後ではなく、戦前(戦争が始まる前)のようだ」と表現しています。

今に残る田尻町の忠魂碑…。過去に戦争で将来の夢を叶えられずに亡くなった方が確実に存在します。大切な家族を失った人がいます。なぜ、昔の人が大きな石に文字を刻んでまで後世に伝えようとするのでしょうか。災害記念碑も同様ですが、過去の日本人が現代の私たちに「二度とこのような思いをさせてはいけない」という強い気持ちを訴え続けているのを強く感じます。

私たちに過去の日本人の気持ちを感じ取り、平和への行動を起こすことが大切ではないでしょうか。

(教頭 横井武志)